

## 平成29年度 第3回 「宇都宮市民大学運営協議会」議事録

- 1 開催日時 平成29年12月1日(金) 午後3時00分～午後4時15分
- 2 開催場所 人材かがやきセンター 研修室(中央生涯学習センター5階)
- 3 出席者 委員 8名(別紙参照)  
事務局 7名(生涯学習課)  
増淵課長, 吉澤課長補佐, 鈴木係長, 黒須総括, 高田専任  
若林社会教育主事, 鱒淵主事
- 4 公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴人 0人
- 6 会議次第
  - (1) 開会
  - (2) 挨拶
  - (3) 議題
    - ① 平成29年度宇都宮市民大学後期講座の実施状況について
    - ② 平成30年度宇都宮市民大学講座企画・運営ボランティアスタッフ企画講座の決定について
  - (4) その他
  - (5) 閉会
- 7 会議資料 別添資料参考
- 8 議事の経過

(1) 開会

事務局) … 開会に先立ちまして、10月から新たに委員に就かれた方を御紹介いたします。委員名簿 No. 6 株式会社 下野新聞社 編集局総務部長 小林 治郎 委員でございます。

小林委員におかれましては、宇都宮市民大学の運営にあたりまして、忌憚のない御意見をいただきますよう、お願い申し上げます。

それでは、ただいまより、平成29年度第3回宇都宮市民大学運営協議会を開会いたします。

まず、定足数についてご報告申し上げます。本日出席委員は、8名となっており、出席委員は半数を超えておりますので、宇都宮市民大学運営協議会運営要領第6条第2項の規定を満たしており、本日の会議は成立しておりますことをご報告いたします。

(2) 挨拶

饗庭会長 ⇒ 本日はお忙しい中、平成29年度第3回宇都宮市民大学運営協議会にご出席いただき誠にありがとうございます。

本日の議題でございますが、「平成29年度宇都宮市民大学後期講座の実施状況について」、「平成30年度宇都宮市民大学講座企画・運営ボランティアスタッフ企画講座の決定について」この2点についてご意見をいただくことになっております。

市民大学の益々の発展のため、委員の皆様には、忌憚のない御意見をいただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

(3) 議題

事務局) … それでは、(3)議題に入らせていただきたいと思います。

宇都宮市民大学運営協議会運営要領第5条第2項の規定により、会長が議事を進行することとなっておりますので、これから先の進行につきましては、饗庭会長にお願いしたいと存じます。

どうぞよろしく願いいたします。

饗庭会長 ⇒ それでは、議事を進めて参りたいと存じます。スムーズな議事進行ができますよう、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

饗庭会長 ⇒ まず、議題①「平成29年度宇都宮市民大学後期講座の実施状況について」事務局から説明をお願いいたします。

**議題① 平成29年度宇都宮市民大学後期講座の実施状況について**

(発言の主旨)

川本副会長⇒ 合同開講式の意義についてですが、アンケート結果を見ると、「どちらかといえば意義があるとはいえない」、「意義があるとはいえない」と答えている方が合わせて30%というのは、今までに比べ、多いのではないかと思うのですが、事務局としてはどのように考えているのでしょうか。

ただ、公開講座のアンケート結果としては、「どちらかといえばよくなかった」、「よくなかった」と答えた方が17%であるので、公開

講座については、良かったと思われたのではないかと思います。

事務局) … 合同開講式のアンケート結果について、事務局といたしましても、重く捉えているところでございます。

合同開講式・公開講座の実施につきましては、各大学の皆様とご協力により実施しているところでございますが、受講者の皆様は、専門講座をお申込みいただくことが主眼とされておりますので、アンケート結果にもございますように各専門講座と公開講座とのつながりや、合同開講式のあり方につきましては、平成31年度の実施に向けて、事務局で協議を進めておりまして、委員の皆様にご審議いただく機会を設けたいと考えております。

小針委員 ⇒ 合同開講式の意義について、感想として「他の受講生とのコミュニケーションに繋がると思う」という意見は、学びの意欲を高めるのではないかと思います。しかし、市民大学の個別の講座を受講される方は、割と個別の学びを重要視されているということもあり、合同開講式の内容が自分の求めているものではなかったりすると、必要性を感じないのではないかと思います。

ただ、合同開講式の意義を運営協議会としてどのように位置付けるのかで、方向性をたてられるかと思えます。

以前、講座を決めるときに、受講者のニーズに沿った講座は人気があり、一方で「科学技術」のような時代の流れの中でこれから先の学んでほしい内容もある、という話をされたと思うのですが、市民大学にはそういった役割もあるのではないかと思います。

例えば、今回の公開講座である西田先生の講義では、「若者と交流する必要性を痛感した」という意見が見られました。「地方創生」という中で若者が地域に根ざすということが言われており、宇都宮大学の地域デザイン科学部もそうだと思いますが、時代の流れの中では引張っていくような内容だったのではないかと思います。

そのため、ニーズとしてはまだ芽生えていないけれど、これから先に学びを引張っていくというものを合同開講式に位置付けるなど、運営側が持っていれば、いいのではないかと思います。

コミュニケーションということも動機づけとして少しは必要だと思いますし、個別に学べばそれでいいというのにはあまり共感できませ

ん。ただ、そういった方がいらっしゃるのも事実であり、どのようにこちら側が示していくか、問われているのかと思います。

小太刀委員 ⇒ 平成30年度の合同開講式について、宇都宮共和大学としてどのようなものを考えていこうか、というときに、資料1の合同開講式の評価として、「近隣の宇都宮市役所で開催したことは、受講者の学習意欲の高揚及び、満足度の向上に繋がったものと考察される」とありますが、これは非常にリピーターが多いということもあり、このような意見が出てきたのではないかと思います。

前期の文星芸術大学の時には、「非常に遠かった」という声もあり、今回の作新学院大学では、宇都宮市役所を会場に使用して募集を行いました。

平成30年度につきましては、出来れば、宇都宮共和大学のシティキャンパスを使いたいということで提案させていただきたいと思っておりますが、総合的に見て評価が下がってしまうのではないかなど、事務局としてどのように考えているのでしょうか。

事務局) … 平成30年度の連携講座につきましては、今後、宇都宮共和大学と打合せをしていくところでございます。受講生のことを考えますと、人材かがやきセンターの環境として、まず駐車場がございませんので、公共交通機関や、自転車、徒歩などでいらしている傾向がございます。また、宇都宮の中心部に皆様お越しいただくという点から、宇都宮共和大学は、バス停が近くにあることを踏まえ、また、人材かがやきセンターから徒歩10分以内ということなども十分に配慮し、今後実施会場を事務局の方でも考えていきたいと思っております。

まだ、決定ではなく、今回いただいた課題なども含めまして、整理させていただいた上での判断になりますが、早いうちにご連絡させていただきたいと思っております。

饗庭会長⇒ 今回、私どものほうで開催させていただいたのですが、本学は市はずれにあり、公共交通機関も使えない、これがネックになり、また、バスをチャーターすると費用がかさむということもありましたので、中心にあります宇都宮市役所を会場として使わせていただきました。大学のそれぞれの状況を加味しながら今後検討していただければ

と思います。

また、定員割れが例年になく、2つの講座あります。この2つの講座については再募集をかけたにも関わらず、受講者を集めることが出来なかった、ということです。今後、テーマとして、オムニバス形式ではなく統一感を持たせた学習内容にすること、テーマによっては難しいことかもしれませんが、市民の関心が向くような内容構成を検討していただければと思います。

饗庭会長 ⇒ それでは、他にご意見等ないようですので、議題①「平成29年度宇都宮市民大学後期講座の実施状況について」ご承認いただけますでしょうか。

一同 ⇒ 異議なし。

(議題①については、全委員の承認を得て議決)

饗庭会長 ⇒ 続きまして、議題②「平成30年度宇都宮市民大学講座企画・運営ボランティアスタッフ企画講座の決定について」事務局から説明をお願いいたします。

#### 議題② 平成30年度宇都宮市民大学講座企画・運営ボランティアスタッフ企画講座の決定について

川本副会長 ⇒ 結果として、一覧表のとおりとなっております。

専門講座の考え方ですが、教養的であり、専門性が高い、広域な範囲であるなどの基準がございますので、そういった視点で審議させていただきました。また、各コースのバランス、企画者のバランス、前期・後期のバランスなども考慮し選考いたしました。

講座については企画の中でいろいろと工夫されておりました。例えば、今まで受講希望者は多かったものの、館外学習があるため、人数を絞っていた講座を、館外学習をなくして出来るだけ多く募集できるように企画した講座もいくつかありました。

それから「ともしび」が意欲的にテーマを出していただいております。大変意欲的で、その中でも、社会ニーズや対象者の講義制度など

を考慮して企画しています。

また、同じようなテーマであるⅡ－２「自然災害にどう対応する？～多発する自然災害に備える～」とⅡ－５「近年の気象災害に備えて～いつ、誰と、どこへ、どうやって避難しますか～」の自然災害・気象災害については、内容をよく吟味し、選考させていただきました。

また、Ⅰ－４「修験の世界 日光山の歴史と信仰～再発見 山岳霊場日光山の遺産～」の点数があまり高くないのは、内容は専門的であるものの、費用の問題があり、そのような点数になっております。

各委員の点数をまとめたところ、事務局（案）のとおりになっております。また、前期・後期の配分につきましては、事務局の方で調整いただき、このようになっています。

小林委員 ⇒ 非常に興味深い講座だなと思います。Ⅰの「郷土を愛する地域・文化・歴史コース」につきましては、「宇都宮歌壇」や「日光山の歴史と信仰」など、霊場のようなところは非常に注目を浴びているところであり、歴史好きの方には大変いいかと思います。

Ⅱの「今を読み解く現代社会コース」につきましても、記事としてご紹介したいような内容がたくさんあり、切り口としていろいろあると思いますので、参加者の学びになればいいかなと思います。

Ⅲの「暮らしを彩る教養コース」では、「蕪村」の話などはまだ知らない方も多いと思いますので、楽しんでいただける内容になるのかと思います。

1点質問ですが、現場に行ってみたり、作業したりする講座はあるのでしょうか。

事務局) … 企画の段階ではありますので、今後、館外学習の実施について精査していかなければならないのですが、企画の段階で館外での現地学習は、Ⅰ－３「悪人か？英雄か？～悠久の年月を超えて再評価を考える歴史上の人物～」で、足利尊氏の本拠地をみるということで、足利市の鑿阿寺や栃木県立博物館『平将門』特別展を見学するというような計画がございます。

また、Ⅰ－４「修験の世界 日光山の歴史と信仰～再発見 山岳霊場日光山の遺産～」では、中禅寺等の山岳霊場日光山の遺産を訪ね、歴史的・宗教的な価値を体感してもらうということで、下野山岳信仰

の遺跡を訪ねてということで企画されております。

また、Ⅱ－２「自然災害にどう対応する？～多発する自然災害に備える～」が現在つくば市を予定し、防災科学技術研究所を見学し、最新の防災対策研究や技術について学ぶということをご提案いただいております。

また、Ⅲ－１「俳句と絵画、ふたつの道の達人「蕪村」を学ぶ～「蕪村」号は宇都宮から始まった～」では、宇都宮に所縁の「宇都宮歳旦帖」実物見学ほか、蕪村の句碑などを訪ねる計画がございます。

実際の実施に向けましては、安全面や内容を精査し、実施していきたいと思っておりますので、企画段階でのご報告とさせていただきます。

小針委員 ⇒ いつも素晴らし企画が出ていて、選考するのが大変かと思われま  
す。

自分では、生涯学習とは何か、というのがわからないところもあります。職業柄、何が学びなのかを考えたときに、受けた人がその後どう変わるか、ということに重きをおきます。

生涯学習とは、生活の全てや歴史や文化などと整合するので、文化的な面を養うとか、体感することで良しとすることもあると思えますし、それが行動の変容に結び付くか、というのが必ずしもそうではないのかもしれない。

そんな中で、たまたま落ちてしまったⅡ－４「子どもの育ちを考える～シニアのちょっとしたお手伝い～」とⅡ－５「近年の気象災害に備えて～いつ、誰と、どこへ、どうやって避難しますか～」は、行動の変容を促す内容なのかなと、感じました。中身を少し工夫していけば、選考されるようになるのではないかと思うのですが、どういったところに軸足をもって選んでいるのか、それとも行動の変容をはかるようなものは扱わないのか、生涯学習課の基準をお伺いしたいと思います。

事務局) … 気象災害については、同じようなテーマがあったということで、Ⅱ－２「自然災害にどう対応する？～多発する自然災害に備える～」とⅡ－５「近年の気象災害に備えて～いつ、誰と、どこへ、どうやって避難しますか～」を比較し、内容の充実度が高いもので、選んでおります。

また、Ⅱ-4「子どもの育ちを考える～シニアのちょっとしたお手伝い～」の講座につきましては、市民大学は有料講座であるということもあり、内容としては、無料で実施する各地域の生涯学習センターで行うようなものであり、そこから市民大学で実施するような、より高度な内容には達していなかったということでそのような点数になっており、整理をさせていただきました。

川本副会長 ⇒ 「発展性」というのが非常に難しいのではないかと考えております。各企画の説明を聞いて、「発展性」についてどのように考えているのか、企画から見えてこないものについては、質問をしながら選考をしています。

そういった中で、この市民大学が、非常に高い年齢層になっていることも踏まえると、講座で受けたものをすぐに効果がある活動に移せるかという点、難しいことと思います。教養や歴史などは次の世代に受け継いでいける、そして、そういう企画を行う中で、また新しいスタッフがその講座に続くような企画を行う形となっています。

具体的に気象災害については、2つの講座を比べて、内容がまだ完全ではないということがございましたので、今回は一方の企画を見送ったということがございます。

事務局) … 講座の軸足ということでご質問があったかと思いますが、市民大学は、当初は教養を深める、専門的なものを学ぶということで、それにはほとんどが合致している内容になっているかと思えます。

しかし、それだけではなく、社会背景を映して、今回、後期講座では、人工知能を取り上げた講座の人气があり、技術革新が進んでいる中で、新しい知識を身に付けたいという方や、それから、生涯学習課では「学び直し」と言っておりますが、退職した後でも、何かスキルを身に付けて、もう一度社会で活躍したいという方が増えているため、市民大学でも地域の大学と連携させていただいて、講座を開講しているので、そういったところで、お力添えをいただいて、また市民大学を一步、変化・前進させていきたいと考えております。

合同開講式なども含め、課題と捉えているところがございますので、平成31年度に向けて、叩き台などを考えているところなので、またご意見等いただければと思います。



長谷川委員 ⇒ 講座内容に関しては、非常に今回も面白く、良い企画ばかりだと思います。

前回の生涯学習センター運営審議委員会の際に、市民大学は若い人向けの講座が少ないという意見が出たのですが、市民大学の規約などを見ても、年齢制限などはないと思います。

Vスタッフの人たちの年齢層も関係があるかと思います。若い人たちがVスタッフとして企画すれば若い人向けの講座もでてくるのではないかと思います。

事務局) … 市民大学の講座受講にかかる年齢制限はとくに設けておりませんが、前期講座については女子高生が受講されていたということもありました。

Vスタッフの方につきましては、ご指摘のとおりで、60代以上の方ばかりですので、企画側に若い人を取り入れていくということにつきましては、今後の課題として検討していきたいと思います。

事務局) … Vスタッフが開催希望する講座の日は、平日に集中しており、土曜日・日曜日・夜間など、若い方・子育て世代が参加できる講座の開催日が、来年度につきましても、1つしかなかったというのが非常に残念です。

「希望とともに生きる」というがんに関する講座については、土曜日の午後に企画していただいているところですが、そういった点も課題があり、募集にあたって投げかけてはいるものの、やはり、高齢層の企画者のため、自身も参加しやすい日程になっている、というところは課題認識がございます。

また、試みの段階ではありますが、「宮の朝活」という20代～40代を対象にした講座を朝5時45分から年2回開催しており、2回目の方は、講座受講者に企画をしていただいております。

そういった動きを見ながら、5～8回の市民大学の講座の企画力がつくかどうかをみているところです。やはり、若い内容で企画がでていところなので、そういったところも切り込めるかどうかを検討しております。試みがうまくいくようでしたら、またご意見をいただければと思っております。

小針委員 ⇒ 企画側を育てるという観点は非常にいいと思います。最初にリピーターが多いということがあったと思いますが、新しい受講者を呼び込むという点で、新しい人の新しい企画は、それを打開できるのではないかと思います。

饗庭会長 ⇒ 他にご意見がないようでしたら、議題②「平成30年度宇都宮市民大学講座企画・運営ボランティアスタッフ企画講座の決定について」ご承認いただけますでしょうか。

一同 ⇒ 異議なし。

(議題②については、全委員の承認を得て議決)

饗庭会長 ⇒ 議題については、以上でございます。その他についてですが、せっかくの機会でございますので、委員の皆様から、市民大学に関しまして、何かご意見・ご要望等がございましたらご発言願います。

以前、小針委員からご提案いただいた、大学関係の委員から共催・連携講座については学内で問題なくできているとご回答いただきましたが、委員の名簿をご覧くださいとマスメディア関係の方もいらっしゃるのです、合同開講式など、何かご協力いただけるような、例えば講師を派遣していただくなど、連携講座を企画していただけることは可能でしょうか。

大学との連携・Vスタッフの講座と2段構えでやっているところですが、新たな発展、拡充として考えられるかと思います。また、現在、宇都宮市の第2次地域教育推進計画が終わるところですが、これから第3次に向けての参考にもなるようなご意見をいただければと思います。

川島委員 ⇒ マスメディアとしてやらなければならない、というところで、例えば、ラジオを例にとると、今回の平成30年度、実施の9件と11件の募集があった内の2件が気象災害・自然災害について触れられていると考えると、例えば、10月から作新学院大学のマネジメントセンターと協力して、学生さんとのボランティアで、防災ドラマを制作し

ているという実例もございます。そういった部分で我々も防災とか天災といったところで打ち出していかなければならないというところがありますので、今を読み解く現代社会コースで自然災害について何か、お手伝いしてほしいというものがあれば、社内でマッチは出来るかと思えます。ある程度柔軟には考えていきたいと思えます。

小林委員 ⇒ 私の部署は講師派遣の窓口にもなっていますので、ご協力できるとすれば、記者を派遣するという部分ですが、ただ、後期の講座の講師などをみると、取材をさせていただいているような専門性の高い方ばかりなので、記者を派遣するよりは、専門の方のお話しの方が興味深いのかなと思えます。そういったところでは、記者ならではの、というご要望があればというように感じております。

事務局) … それでは、今後のスケジュールについてお伝えいたします。  
平成29年度宇都宮市民大学運営協議会につきましては全3回となっておりますので、今回は最後となります。次回につきましては、次年度、4月中旬から下旬にかけて平成30年度宇都宮市民大学運営協議会を実施してまいりたいと考えております。開催日時につきましては、事前にご相談させていただきたいと思えますので、ご協力よろしくお願いたします。

饗庭会長 ⇒ 以上で本日の議題は全て終了といたします。円滑な議事進行に関しまして、ご協力いただきまして誠にありがとうございました。